



みずみどり

2025 年 6 月 1 日

第 168 号

発行：いたばし水と緑の会

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会

<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>E-mail : mizumidori@nifty.com

連絡先 坂本 郁子 板橋区中台3-27-E505 090-4618-1295

草原の魅力と自然の力

赤塚城址バッタ広場のはなし



2000 年 5 月

赤塚ため池公園の崖上に広い草地があります。公園の草地は普通年に数回草刈りされます。1999年8月末、私達は偶然草刈直後にバッタ類がいなくなったのを見て、芝生のような草地ではそのような環境に住む生き物しかいないことを知りました。そこで東京都公園協会にお願いし、「市民が管理する草原ビオトープ」を認めていただきました。

丸太の杭100本と公園の廃材から低い柵をつくったのが、2000年春。東西27m、南北34mの、立ち入り自由のバッタ広場がはじまりました。バッタ広場は2000年生まれです。



写真上は 1998 年 10 月に撮影したバッタ広場が出来る前の同じところです。

機械による草刈りを止めたバッタ広場の生命力はすごかった。草刈りを止めると草が生えてきました（表紙の写真）。ここまでは予想通り。

2003 年 4 月には周囲の樹林地の木の種類（ほとんどがエノキ）が一面に芽生えてきました（写真中）。ここまでは観察だけ。



2003 年 5 月に、はじめはエノキを切りました。その年の 11 月にエノキと樹林地から進入するアズマネザサを切り、続いて 2005 年 8 月にエノキ、クズ、アズマネザサを切り、以来ずっと切ってきました。

当時草原ビオトープという言葉もありませんでした。「雑草がぼうぼうで小汚い」と言われ、評判は非常に悪かった。

2010 年には、公園管理者が草木を全部刈り払って更地にしてしまいました。肩身の狭い草原ビオトープでした。私たちも嫌われないよう配慮し、徐々に存在が認められるようになり、今日に至っています。

生き物たちにも出会います。草地に住むバッタやキリギリス、エノキやクズを食べる虫など。植物も生き物も、それぞれが居心地の良い場所に落ち着きます。

写真下は 2025 年 5 月の様子です。



バッタ広場の植物はすべて、自然に生えてきたものです。自然の力はすごいです。

バッタ広場に生えている植物はみな「雑草」です。放っておくと藪になります。何を刈るかは、好みもありますが、20 年以上関わってきた坂本の経験と勘（独断）にまかせてほしい。

バッタ広場の方針

- ① まずササを減らす。周囲の樹林地のササが侵入し、放っておくとササ藪になってしまいます。野草が好む日当たりのよい場所のササを優先して刈り、ササしか生えない場所はササは後で。
- ② 小さな子供たちが遊びに来ます。ケガをしないよう注意。人が立ち入る場所のササは、頻繁に根元で切ります。
- ③ 昆虫採集に来る人は多い。採集しないよう看板で P R し、めずらしい生き物は紹介しません。
(坂本 郁子)



バッタ広場の手入れに参加して

5 月 11 日、バッタ広場のクズの蔦を切り笹刈りをしました。

汗ばむ陽気でしたが、緑に囲まれ鎌をもち作業をしていると爽快感を感じます。

ここはグリーンガーデンのように植物を植えた美しい庭園ではありません。

自然に生えた野草と風や鳥に運ばれた種子から芽が出た低い木があります。

春の陽射しを浴びて一斉に咲いた白い花（ハルジオン）の上に 1 センチ程の黒い昆虫が群がっています。それぞれが遺伝子を次の世代に伝える姿が愛しいです。

このバッタ広場は、いたばし水と緑の会が、生きものがすめる草地として 2,000 年から維持管理を続けています。

今まで自然環境保護等とは無縁に過ごしてきた私ですが活動に参加できることは喜びです。

(小林 悦子)

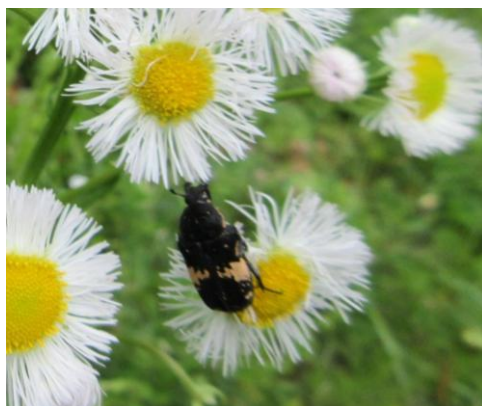
本日のバッタ広場手入れは、生えてきたササを根本で刈るという事でした。そこにあったイネ科は春に実をつけるタイプだそうで、秋には消えて、秋に実を付けるタイプのイネ科に変わるという事を坂本さんから教えて頂きました。

キリギリス、アオスジアゲハなどがいたようでした (清水裕子)。

バッタ広場について

バッタ広場では笹刈りの作業をしています。以前は一面笹が生えていたそうですが、笹を刈ると様々な植物が生えて、春は花畑になります。ササだけを選んで、刈っています。クズやキンミズヒキなどもたくさん生えてきたときには駆除します。刈ったササは一か所にまとめています。他の植物と比べ、分解が遅いので、高く積みあがっています。これも何か有効活用できると思います。刈り取ったアズマネザサ細く、短いので、七夕の飾りにするのは難しいです。畑などで雑草防止や土壌保護などに使う人もいます。

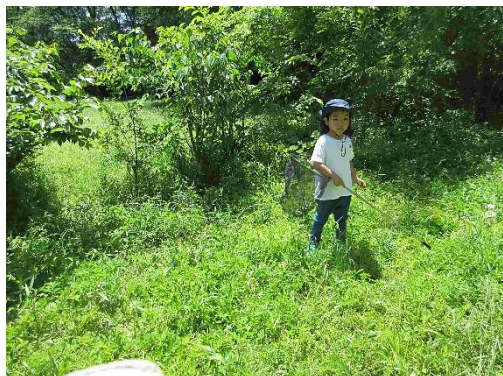
保湿や保温効果を活かせる場所があればいいと思います。(鈴木 より子)



左上：ササを刈ったところに生えてきたオギ (ススキのなかま)。刈ってしまうと消えてしまうので、要注意。

右上：ハルジオンの花に来たクロハナムグリ。ハナムグリは花に潜り込んで、蜜や花粉を食べる甲虫。

左下：バッタ広場に遊びに来たお客さん



小豆沢公園崖下のニリンソウ



小豆沢公園の東側の崖の下にニリンソウが自生しています。

この場所は雑木林の中に小道があり、階段を登り降りしながら森の中を歩けます。

ニリンソウ、タチツボスミレ、シヤガ、ツツジ、ハナダイコンなど野草の花に出会えます。

今年は雨が多かったせいか長く楽しめました。

きれいに咲くように落ち葉かき、草刈りをボランティアの方がして下さり手入れが行き届いています。また、ここは地下水が階段や地面から流れているのでその湧水がたまってきた御手洗池（御手洗不動旧跡）もあります。

ずっと大切に守られていてほしいです。（佐藤克子）

ニリンソウ自生地は、体育館のある小豆沢公園の道路を隔てた北区側にあります。

トンボ池でのあれこれ

通りがかりの男性（ほかに何人か）

「オタマジャクシどうした？」 今年、カエルは来なかったんです。がっかりです。

通りがかりのご夫婦

「最近カエルを見なくなったけど、どうしてなんだろう」 どうしてなのでしょうねえ

美術館に来た杉並区の女性

「メダカを飼っていた水槽を掃除したら、ヤゴが 10 匹いたので、メダカを他に移して、イトミミズを買って水槽に入れたらトンボが 2 匹羽化しましたよ」 ミニビオトープですね。

杉並区から来た女性

「トンボ池だからトンボがいるんですね」 トンボは来るのですがザリガニがいてヤゴが育たないのです。「じゃあ、トンボ池じゃないですね」 そうね、不当表示ですね。しょぼん

俳句を作っている寺尾さん

「何かお手伝いある？」 ある、ある、フェンス際の草刈をお願い！ 「草を刈っていたらカブトムシの幼虫がいましたよ」。もっと落ち葉があるところに移しましょう。ケヤキの小さな実生を持って帰って植木鉢に植えるのだそうです。今日は端午の節句だから繁茂しすぎたショウブをもってかえってショウブ湯にしていね。・・・俳句できたそうです。

小学生たち

「中に入ってもいいですか。ヘビとカナヘビを探してるの」 彼らはどこかで捕まえたヘビ（小さなヒバカリ）3 匹を見せてくれました。持っていかないで放してね。あなただってどこかへ連れていかれたらいいでしょう？ 「うん、そうする」 ありがとうね。

トンボ池の憂鬱

5 月ごろからトンボ池でギンヤンマに出会います。ギンヤンマは水草に卵を産みます。ちょうどよくオオカナダモ（藻）が投げ込まれていました。ですが、ザリガニが減らないのです。去年は布施さんが集中して駆除し、今年は私が週 3 回はトラップをかけて捕獲していますが、今のところザリガニ捕獲数は去年と変わらない。

活動・観察記録（4月～5月）

トンボ池

ザリガニ捕獲 875 匹。カルガモ飛来、オタマジャクシ約 20 匹放流されたが 2 日でいなくなった。カナヘビ、ヒバカリ、トカゲ、ハエトリグモ、K オオヒラタシデムシ、ベッコウヒラタシデムシ、モリチャバネゴキブリ、ツマキチョウ、甲虫の幼虫（カブトムシ？）、アカボシゴマダラ幼、

クビキリギス、オオスズメバチ、オオウンモンクチバ、ギンヤンマ、放流された魚（ドンコ？、ダボハゼ？）、イオウヒロハシリグモ、エビネ、タコノアシ

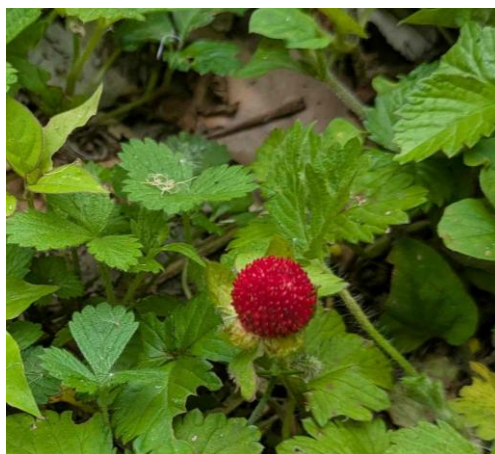
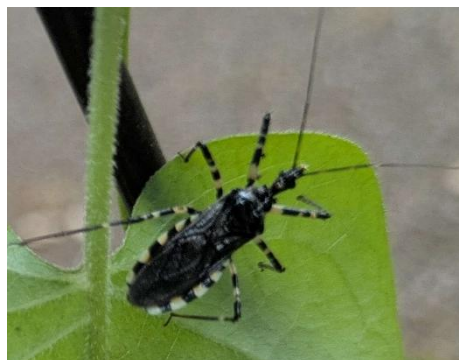
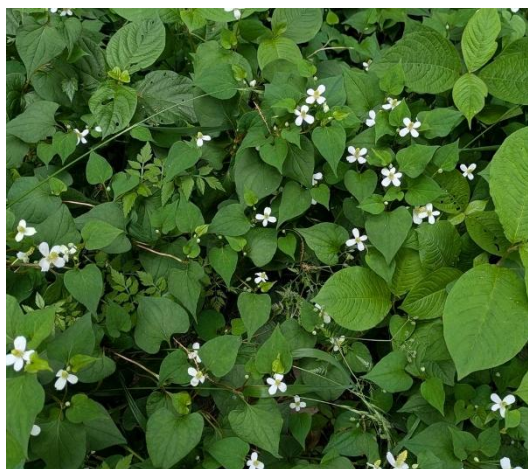
バッタ広場

アカサシガメ、クマバチ、ナナホシテントウ、クロハナムグリ、コアオハナムグリ、シオカラトンボ（？未熟）、ベニシジミ

トンボ池の観察

5 月 24 日

池の中に生えているイグサに黄緑色の小さな花が集まって咲いていました。ニワトコは赤い実がなり始め、11 日にはつぼみだったドクダミが花盛りでした（写真左上）。一方、先日は葉をたくさんはやしていたセリは虫に食べつくされ、殆どが茎だけになっていました。わずかに残った葉の裏を見ると青虫がいました（写真右上）。このような虫を食べにクモなどがくるようですが、この日は肉食の昆虫はシマサシガメを近くで見つけました（写真左下）。サシガメは昆虫の体液を吸って餌にします。草かげではヘビイチゴの実も赤くなっていました。ヤブヘビイチゴは葉先が尖るようですがこれは葉先が丸みを帯びていたのヘビイチゴで間違いなさそうです。春の豊かな自然を観察し楽しい時間を過ごすことができました（鈴木 より子）。



活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は 坂本まで 090-4618-1295

高齢社会での活動です。作業はほどほどに、お楽しみや探検を取り入れてやっていきます。会員の方も会員でない方も、無理をしないでご参加ください。カマなど道具は用意します。保険は個人で加入してください。

赤塚ビオトープの手入れ

赤塚トンボ池 板橋美術館横の小さな池です。水源は大仏下から湧く水。パイプで引いて美術館の裏を通って池の手前で、流れになって池に流入しています。生き物たちのための土の池です。

バッタ広場 赤塚城址の郷土資料館の上あたり。生き物たちが暮らす草原ビオトープです。

活動日時 (第2日曜日と第4土曜日)

6月8日(日) 9時半～10時半

6月28日(土) 9時半から10時半

7月13日(日) 9時半～10時半

7月26日(土) 9時半～10時半(この日は生き物調べです)

集合場所 赤塚トンボ池

持ってくるもの 汚れてもよい服装(長袖、長ズボン)と汚れてもよい靴、作業手袋、帽子、飲み物、虫よけ薬、

日暮台公園と樹林地の観察 第1日曜日10時から 日暮台公園前集合

バッタ広場みんなで生き物調べ 7月26日(土) 9時半美術館前集合(雨天翌日)

エコライフフェア夏

水と緑の会も出展します(展示のみ)。テーマは地球温暖化と樹木の働き

場所 : エコポリスセンター

日時 : 6月14日(土)～29日(日) 9時～17時(最終日は15時まで)

●ボランティアの参加を歓迎します。ご意見や自然情報もお寄せください。

ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ(赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場)などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があります。不定期ですが区外の自然や保護活動の見学も実施しています。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」(隔月発行)をお送りします(年会費2000円:振込先は表紙に記載)。